



あきさきのかみ
春

特別
~4
7351
1



特

八4

7351

1

56-4041



立春

春はふと来たりて
けしき長来ふ
野山も花開く
鳥乃が声も
とりに松舟乃
世に人々も

天乃言よとほくて乃こも今物
トハいさのみまふて長果なるて乃
之のそしつちのいとりのか又殿世の
まて書けふとく一なるも今物ハ事ハ
れ風のながりサレよとくこまきあ
日ハ今物ハハまう乃秘めたり日新
にらまこ神のこまひの言も今物よ

つひの言乃日新まき一福の物日新
おふとく人ハくまのこまのこま
まの言乃日新まき一福の物日新
ちの言乃日新まき一福の物日新
風のまのまのまのまのまのまのま
ハハハハハハハハハハハハハハハハ
物ハハハハハハハハハハハハハハハハ

カク

氷ハ山川乃に海に赴りて流るるを
池乃氷より夏風よりの波に波乃
河やせん 氷よるもくうけいのみ
も今船のきしそがし通る
噫ハ夢にたう引くこをもちり
平腹をひるくも氷の心乃山越て
かゝる川も乃ハ冬も今春とや

昔海をん 今も今やあそび
昔と世をん
船ハ明る海に腹もれ引船白く
夏やあ日新乃よりあは日
乃乃のあふり春の川
洞ハあはる海をきあはる船
乃乃のあそび

山ハ船ハ流自今山よびふていんも
花よきよきさうたのねえ風作て
度よきさう谷の氷もけり物に
のこりけりよ舟もけり物に
おきけり世のしきもけり物に
をくきけり

川ハ山川乃こりけりな

にまゝの氷乃即まゝに舟に渡す神ハ
れとて

池ハ氷をよき春風ハ乃んもサ
と今地のんハ乃んもサ

氷ハ多きも少きも氷も雪も
雪ハ川にまゝに

はかりら申乃うんふあし勢の乾し
つるがせきま下

名許を 山を乃多ねの山も是きぬ

しりばいのうたにこそこそ 歌うらま

あまきあはれあふ坂乃あこしてま乃

こけふ入る川 先も歌うらまのこけふ 雲き

えぬ都めづも今初よりいふ乃光に

今初よりいふ乃光に

明よりいふ乃光に

のらあともいふ乃光に

朝きいふ乃光に

いふ乃光に

感内三春

春の日はあけぬ 春の日はあけぬ

書

子春

今乃秋... 物... 事... 今乃秋... 物... 事... 今乃秋... 物... 事...

今乃秋... 物... 事... 今乃秋... 物... 事... 今乃秋... 物... 事...

ぬ

脱 殿ハ 玉酌乃 亦うすむ 氣を 玉子
ト ころを 凡 新なる 志乃 凡 人の 酌よ 殿
朝ハ 玉酌乃 志乃 殿 朝 酌 酌 酌
山乃 酌 酌 酌 酌 酌 酌 酌 酌
夕ハ 入 酌 酌 酌 酌 酌 酌 酌 酌
乃 酌 酌 酌 酌 酌 酌 酌 酌

野ハ 山ハ 玉酌乃 殿 酌 酌 酌 酌
に 酌 酌 酌 酌 酌 酌 酌 酌
て 酌 酌 酌 酌 酌 酌 酌 酌
乃 酌 酌 酌 酌 酌 酌 酌 酌
乃 酌 酌 酌 酌 酌 酌 酌 酌
乃 酌 酌 酌 酌 酌 酌 酌 酌
乃 酌 酌 酌 酌 酌 酌 酌 酌
乃 酌 酌 酌 酌 酌 酌 酌 酌

逢坂乃雲の松むし 平腹あゝる夜月
ちよとまゝに乃せきこけかゝる下
路ハ乃をくちまにま言 平腹中に
まき入乃袖の中を 念所を 一人月
と川あはれうまむ 井くまはる初路 平
海ハかき川しぬ平腹まき中 浦乃松原又
元とまぬ 海人乃いさり火氣まき心 平腹

と志川うに平腹 塩乃みち印もるしハ
うぬ 念所を難とま行乃りまゝに
平腹川 塩乃浦乃松をま川うに
てあゝ路し 念とら路し 平腹 平腹 平腹
とらくうまむ 平腹 平腹 平腹 平腹
平腹 平腹 平腹 平腹 平腹 平腹
平腹 平腹 平腹 平腹 平腹 平腹

しと強し物口タカ乃し川うよ史り
してみしり乃之を 吾等の之を重乃
海よりよこ川にやん海とて

野亭

歳時記もなきのころかお意為下
つらつし神より 富海と吾等の
にり 念の春日舟の言の若乃

吾のたに 吾乃昔の意
是より乃おまにり 吾の
笑ハ重坂乃実乃枝ゆにり 吾
とたらそ乃世ににり
梅ハ梅とよ舟とあを梅のたに
きたり 吾のそと梅とよあ
とやい來て
かくり

橋ハ梅ら〜〜〜〜〜
てな〜〜〜〜〜
なく〜〜〜〜〜
竹ハ朝〜〜〜〜〜
と風〜〜〜〜〜
松ハ子〜〜〜〜〜
美〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜

しんねんはむねのひな乃小松と引
てしゆんぞ引しゆんね少松り末の
子ひねりちかきしゆんねと引しゆんね
金と引しゆんねと引しゆんねと引しゆんね
志しゆんねと引しゆんねと引しゆんね
子ひねりしゆんねと引しゆんねと引しゆんね

いふ葉

正徳七年七月七日
老翁の言に依りて
てしるすに依りて
ついでに言ひて
ト一もやとお熟し
とよむに依りて
書ハ白き乃ち

分てつむ
面ハ如也つ
えとく生り
つむ

野を去り
志免を
はむ

拙書を讀むに於て其の旨を以て代りて
も亦其の旨を以て代りて其の旨を以て
今其の旨を以て代りて其の旨を以て
其の旨を以て代りて其の旨を以て
其の旨を以て代りて其の旨を以て

其の旨を以て代りて其の旨を以て
其の旨を以て代りて其の旨を以て
其の旨を以て代りて其の旨を以て
其の旨を以て代りて其の旨を以て
其の旨を以て代りて其の旨を以て
其の旨を以て代りて其の旨を以て

廣く見ゆるはしにけりて
こふ松よふかき口を
谷にゆる
野もさるるまよひも
こよひぢりけり
海にさかたにけりて
たけのこ

物あはれなるはしにけりて
山にさかたにけりて
谷にゆる
野もさるるまよひも
こよひぢりけり
海にさかたにけりて
たけのこ

水色ふらふら山道乃のちひら水
まにほふ

夜梅

梅の影くの菫乃知にまこと
むにけし先乃梅とく見乃れ
りふもまの足とりよん
むいふえよあつこく梅香の

あつこく梅香の
ふいふえよあつこく梅香の
実よの梅たまふ
梅よの梅たまふ
梅の影くの菫乃知にまこと
むにけし先乃梅とく見乃れ
りふもまの足とりよん
むいふえよあつこく梅香の

多乃梅の世に... 神は白梅
と此の梅乃香風梅乃白鳳の伊予
善之舞 神乃... 香

香ハ白之乃... 梅之
三... 梅之
香ハ... 梅之

... 梅之
... 梅之
... 梅之
... 梅之
... 梅之
... 梅之
... 梅之

之のうらみ香をのりし梅の香に
あつた月も新中へ

山は山に乃葉の何れと香に梅
葉の香は山に乃葉の何れと香に梅
乃の香は山に乃葉の何れと香に梅
名新古く山に梅の香は山に梅
乃の香は山に乃葉の何れと香に梅
乃の香は山に乃葉の何れと香に梅

親の心

野、梅の香は山に乃葉の何れと香に梅
名新古く山に梅の香は山に梅
乃の香は山に乃葉の何れと香に梅
乃の香は山に乃葉の何れと香に梅
乃の香は山に乃葉の何れと香に梅
乃の香は山に乃葉の何れと香に梅
乃の香は山に乃葉の何れと香に梅
乃の香は山に乃葉の何れと香に梅
乃の香は山に乃葉の何れと香に梅
乃の香は山に乃葉の何れと香に梅

梅の香は山に乃葉の何れと香に梅
乃の香は山に乃葉の何れと香に梅

信うら山常水もあつり梅りき
さ梅乃うまのめりりあつり
里八里乃うまのめりりあつり
と海と名取の梅乃うまのめりり
里八里乃うまのめりりあつり
人かたのうまのめりりあつり
梅乃うまのめりりあつり
梅乃うまのめりりあつり

むあつりりあつり
高八里乃うまのめりりあつり
さ梅乃うまのめりりあつり
あつりりあつり
人乃梅のうまのめりりあつり
梅乃うまのめりりあつり
高八里乃うまのめりりあつり

東の山に梅ありて
花は白く梅は紅く
花は白く梅は紅く
花は白く梅は紅く
花は白く梅は紅く
花は白く梅は紅く
花は白く梅は紅く
花は白く梅は紅く
花は白く梅は紅く
花は白く梅は紅く

くはひをせしよらゆり

梅の葉は白く梅の花は紅く

下り水にちりてはるる

梅乃下水を流す

梅の花は白く梅の葉は紅く

梅の花は白く梅の葉は紅く

梅の花は白く梅の葉は紅く

百本の柳 柳をえりてさしつゝさし
下枝

柳 露

柳をみくろの露をほろ風よなりゆく
と乃かめしほきこもるに 傍りさ
由よこしつゝさしつゝさし
もささるゝさしつゝさしつゝさし

の定春も末よならぬさしつゝさし
つゝさしつゝさしつゝさし
のさしつゝさしつゝさし
つゝさし
風ハさしつゝさしつゝさし
つゝさしつゝさしつゝさし
つゝさしつゝさしつゝさし
つゝさしつゝさしつゝさし

いふにたむく 舟のこゝ海をさして
霧の立にせんく ちむく 舟のこゝもみぢ
舟のこゝ霧のこゝ乃 舟のこゝ 霧の中
小舟のこゝく 又ハ霧乃 舟のこゝ
こたても 霧のこゝ

舟のこゝ乃 舟のこゝ乃 舟のこゝ乃
舟のこゝ乃 舟のこゝ乃 舟のこゝ乃

舟のこゝ乃 舟のこゝ乃 舟のこゝ乃
舟のこゝ乃 舟のこゝ乃 舟のこゝ乃
舟のこゝ乃 舟のこゝ乃 舟のこゝ乃

舟のこゝ乃 舟のこゝ乃 舟のこゝ乃
舟のこゝ乃 舟のこゝ乃 舟のこゝ乃
舟のこゝ乃 舟のこゝ乃 舟のこゝ乃

ててアタリ 色にてに立すりてとれぬれそに言
たり人のそ下 長柳乃陰ももらぬの柳
なせよあり

氷邊ハ氷もありに親なひく川そひ柳
なるとひうり 毎流ぬききめの柳ぬれ
て石もさるり乃糸結めり中に糸引を言
まき柳乃うけり氷そこり玉簾よを

とてし申 露のまにたると物系
入江乃柳 川柳名新をくしら流とまは
の川原乃長柳 乃まらしくもハカリ
うつ川にらそひ柳 うち川にらそひ
初秋川きりの柳 ち野川乃う柳
うさ柳とぞ乃 世川乃とまの柳系
川乃とまの 世川乃とまの柳系
世川乃とまの 世川乃とまの柳系
柳とまの 世川乃とまの柳系

小舟り 春草も色 初らしむも 新芽
よも草より 花もも 小舟り 小舟り 小舟り
野まの 乃 香ひ けき けき けき けき けき
春の 小舟り 初らしむ 小舟り 小舟り 小舟り
乃 小舟り 小舟り 小舟り 小舟り 小舟り
は下 小舟り 小舟り 小舟り 小舟り 小舟り
草も 小舟り 小舟り 小舟り 小舟り 小舟り

おまの 神人 今 山 里 乃 春 草 乃 春 草 乃 春 草
春 草 乃 春 草 乃 春 草 乃 春 草 乃 春 草
か け 小舟り 小舟り 小舟り 小舟り 小舟り
母 小舟り 小舟り 小舟り 小舟り 小舟り
そ 小舟り 小舟り 小舟り 小舟り 小舟り

水邊の草花は磯草 沢草 芝 地草
たやあさりのひらひら ところの草花
まの波乃下草花の色はあつらひのさ
しそ邊の草花は山草のひらひら
まの波乃下草花の色はあつらひのさ
ひらひら ね乃草の緑
庭山乃下草花の色はあつらひのさ

ついで下まらし〜とすこみりて
と出来乃けのち乃下りびのえ望は家人の
今乃のくまや乃つき殿所文えおさあ
山ハ出乃けのち乃下り山流たにいと
ついでなる谷うふよ松の事後よりえ神
果乃の所末意〜わ〜急下を〜小野山
〜と山〜のふち〜のたの〜

脚ハらけ脚〜音と〜物とハれと
てゆ〜るま乃やけのふゆ〜
まのゆけ脚〜ハま結まとはせんはま井とや〜
〜と〜いひま〜解〜てり〜
名所をまの井ハ〜や〜れ〜ん〜
〜と〜ん〜に〜や〜り〜
〜と〜乃〜ハ〜れ〜〜ひ〜
〜と〜

春曙

あはれしきひかりの夜をのぼるぬきも
こころしれく涙のえりりまのよと志
むらともおひほるなより腰のちりさ
さゆふと涙を

春歌

雲のうらみおひほるなより腰のちりさ
と給よよと

あはれしきひかりの夜をのぼるぬきも
こころしれく涙のえりりまのよと志
むらともおひほるなより腰のちりさ
さゆふと涙を

山乃系氣とよはに五原とてつと世にとも
こゝぬ山の隈をりめ、にり何ら松松の麓
木の口小新あり松松の山にりいまに新自ハ
不ぬにきくちう修定
山の五原乃神と新あり山の隈をりそ
新ありか、は修定なる 采の戸乃明とて
うく新うとむ 松新ま 三地りり乃
新とて乃山は新あり新とてりり内い
の山りもをこがさる

さしつゝ山の隈乃老も五原よいしつゝ原
うしつゝ山山にりいまに新自ハ
不ぬにきくちう修定のふもこりん号あり
野ハ春乃野の草のこりん新あり山
とれつゝうす也人のよ新あり山
五原の山も五原の山とてありぬ
遠辺ハ浦修りありのこりん号あり山
後乃まの原風とて山に修りあり

あつたはたのむらじのゆきをきく(Ormal)の
てしはたのむらじのゆきをきく
きくはたのむらじのゆきをきく

のしにむらじのゆきをきく
たのむらじのゆきをきく
きくはたのむらじのゆきをきく
きくはたのむらじのゆきをきく
きくはたのむらじのゆきをきく
きくはたのむらじのゆきをきく
きくはたのむらじのゆきをきく
きくはたのむらじのゆきをきく

きくはたのむらじのゆきをきく

昔の事かきしつゝ
いふことありしは
はういふ事かきしつゝ
いふことありしは
いふことありしは
いふことありしは
いふことありしは
いふことありしは

いふことありしは
いふことありしは
いふことありしは
いふことありしは
いふことありしは
いふことありしは
いふことありしは
いふことありしは

田ハ其處より一途も増はりし田
乃其秋の末に於て一畝も増は
りし田一畝も増はりし

右ハ其處に於て一畝も増は
りし田一畝も増はりし
只一畝も増はりし田一畝も
増はりし田一畝も増はりし
乃其秋の末に於て一畝も
増はりし田一畝も増はりし

色も増はり

物ハ物ハ其處に於て一畝も
増はりし田一畝も増はりし

夕ハ今も又なかりし田一畝も
増はりし田一畝も増はりし
其秋の末に於て一畝も増は
りし田一畝も増はりし

Handwritten text in cursive script, likely a list or account, written on the left page of the open book.

Handwritten text in cursive script, likely a list or account, written on the right page of the open book.

朝ひ今之秋を笑ふにりし武に平あは
海り面敷とていひし物に在りしは
今居の草はつゝとていひしは
ハ秋の花よりハ秋の草より
よも草のさきよはつゝとていひしは
曉ハ玉の乃のなはつゝとていひしは
つゝとていひしは

秋の羨望思ふ小に水誰こひのきぬ
くぬえにふぬ 毎六色乃別乃わづらひしは
似多乃ハ草はよとていひしは
つゝとていひしは
曙ハ花乃咲めより後さよとていひしは
くゝとていひしは
よも草はつゝとていひしは

秋とてみよとよ

冬はたそぬ乃るに思ひこり 春は花
光乃るは清き水 夏は空のゆくに
中よとてよ 又冬乃るは思ひこり
秋は花のつぼみ 春は人のあはれを
とてよ 中よとてよ 又冬乃るに
とる 冬乃るは思ひこり 又冬乃るは思ひこり

海とてみよ

春は花のつぼみ 夏は空のゆくに
秋は花のつぼみ 冬は空のゆくに
春は花のつぼみ 夏は空のゆくに
秋は花のつぼみ 冬は空のゆくに
春は花のつぼみ 夏は空のゆくに
秋は花のつぼみ 冬は空のゆくに

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a diary. The text is written vertically on the left page of the open book.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a diary. The text is written vertically on the right page of the open book.

是乃画(一)画(一)画(一)

海邊ハ夕なれば乃〜〜〜〜〜かにいふ

浦をまゐ乃仲より〜〜〜〜〜所ハナク

うくとり厚 忠新のん〜〜〜〜〜

中あもいれおののぬおまをいせりらん〜〜〜〜〜田

まら〜〜〜〜〜山まのののち〜〜〜

らる山おまらぬか〜〜〜〜〜越おまらぬかのま〜〜〜〜〜

初少者乃〜〜〜 大よ也の浦大たののり〜〜〜

よあり 難も乃浦なはくのあ〜乃をよ 松竹

又かえ秋すけい〜〜 一つ〜〜〜

うら〜〜〜 呼子さき

よきもの春さ〜〜〜 中なきておは〜

き〜〜〜 一〜〜〜 後き〜〜〜

〜〜〜 一〜〜〜

とて船を中ずりてはまゝに舟に移りて舟を
いへり船をいへり船をいへり船をいへり
まは原をいへり船をいへり船をいへり
まは原をいへり船をいへり船をいへり
まは原をいへり船をいへり船をいへり
まは原をいへり船をいへり船をいへり
まは原をいへり船をいへり船をいへり
まは原をいへり船をいへり船をいへり

中ずりてはまゝに舟に移りて舟を
いへり船をいへり船をいへり船をいへり
まは原をいへり船をいへり船をいへり
まは原をいへり船をいへり船をいへり
まは原をいへり船をいへり船をいへり
まは原をいへり船をいへり船をいへり
まは原をいへり船をいへり船をいへり
まは原をいへり船をいへり船をいへり

おき一野 つまにのらとちりきうら。 船口乃人
ま乃船の けり ころころなやにき大磯
まのせり

雲雀

子まがしりわあかしのき乃野ふと
ひがうりあやみこくを産ゆる食ま
風はな〜く〜あてし 産まおあ
志りよめま〜りよ〜志りよ〜ま〜志りよ〜

にまよらうあからとよけ〜志りよめ
あ〜云ひ〜り乃 産まら〜あ〜め〜つと
流〜り〜ま〜あ〜な〜ら〜

あ〜あ〜と〜に〜あ〜つ〜ら〜あ〜あ〜の〜あ〜あ
ま〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

旅とあつてきて中庭よりのよ 野にのち
小糸のやよき又 世にこれきこきこに
おひる 中庭の沖にをたはる 旅のよ
まじりなき 其外 浅がらつて 又 志のうたは
よみよみ せんに 合さう さいふと
しと 野に 雲が くに 多ふ あり 糸
ハ こと 雲 煙 けり 野 けり けり けり けり

赤火也 花井橋

花とあつてきて中庭よりのよ 野にのち
小糸のやよき又 世にこれきこきこに
おひる 中庭の沖にをたはる 旅のよ
まじりなき 其外 浅がらつて 又 志のうたは
よみよみ せんに 合さう さいふと
しと 野に 雲が くに 多ふ あり 糸
ハ こと 雲 煙 けり 野 けり けり けり けり

あまのくさすさくしとぞかへりささてこそ様
めづるよき花をよむ事いさか
さるしとて花を下むすまは川よんを
流くは雲ぬくは河ちとて事なかり
命にうしとちる思ふに事なかり
昔も人の心も事なかり武の事ぬ
山流もなる白く事なかり

ちうぢたしうしとれは心なほ
しうしとてまの手に事なかり
いひとて事なかりまの心も
る入口しとて事なかり心な
おらなかり

よらうとて事なかり心なかり
まの心も事なかり

かきてむ乃夢にぬかり山のをいへる物
待花に梅のこ物と御く咲ぬり物と
むゆきひくんとたしこむ山にふむ物
ちほ乃つましく咲そむ物も今に物
よする吹風とさぬ先下りてむすの
ぬ乃たしきまかしてらるる
さるやまの山やぬ花はよこむ物にのり

花かきとるぬ物と咲物とぬ物とぬ物
ははき先んしるぬくし物とさすの物
る花にきとぬ山物と合てぬ入をふす
ていこの物と分てる花とさぬ山物と
さすしる物とぬ物とぬ物とぬ物とぬ物
志とよしる物とさる山にぬ物とぬ物
いへるぬ物とぬ物とぬ物とぬ物

くろきしよてこは乃乃をそく
おはかりしよそとをいしるのよ
ふてとせうせうしよの備りあし
もよせうしよふさふえていそ
流しよせうしよふさふえていそ
ろりみろきしよそとをいしるのよ
けしにむろ梅よめりしよふさふえていそ

響ハ雲のうらぬりしよそとをいしるのよ
響風も今はいしよめ山の響ていそ
そとろしよせうしよふさふえていそ
かきしよ

今もこまはひしよそとをいしるのよ
響風も今はいしよめ山の響ていそ
そとろしよせうしよふさふえていそ
響ハんとしよそとをいしるのよ

花の白くは
花の白くは
花の白くは
花の白くは
花の白くは
花の白くは
花の白くは
花の白くは
花の白くは
花の白くは

花の白くは
花の白くは
花の白くは
花の白くは
花の白くは
花の白くは
花の白くは
花の白くは
花の白くは
花の白くは

これより先は... 白き花

花は白き花を白く... 白き花を白く

白き花を白く... 白き花を白く

白き花を白く... 白き花を白く

白き花を白く... 白き花を白く

白き花を白く... 白き花を白く

白き花を白く... 白き花を白く

白き花を白く... 白き花を白く

白き花を白く... 白き花を白く

白き花を白く... 白き花を白く

白き花を白く... 白き花を白く

白き花を白く... 白き花を白く

白き花を白く... 白き花を白く

白き花を白く... 白き花を白く

くはふれてしまふまを山室もむの便り
くはふれてしまふまを山室もむの便り
くはふれてしまふまを山室もむの便り
くはふれてしまふまを山室もむの便り

さうしては嘆きまふよのころさうまふよの春風
命まふよのころさうまふよの春風
命まふよのころさうまふよの春風
命まふよのころさうまふよの春風

先づは山室もむの便り
先づは山室もむの便り
先づは山室もむの便り
先づは山室もむの便り

漢より河のなほもむにんせしむる磯
山乃花をみそ仲好毎とこきよはる
り舟の遊子の風もよりし波もよる
ゆりよ山まき花遊人乃まむる波
や乃まき花遊を改むる遊人のまき
ゆりし
んが花遊人の波中も自まき山乃波乃

漢まの社自りしまき山乃波乃
氷色六地まき花乃ここと新し山乃まき
花乃ゆりしまき花乃ゆりし波のちやに
新しゆりし波乃花まき山乃ゆりしをま
分りいふまき乃まきの帯もこまきゆりし
山乃花のまきの酒まきゆりしまき花乃まき
花乃まきゆりし花乃まきゆりし
まき花のまきの酒まきゆりしまき花乃まき
花乃まきゆりし花乃まきゆりし

いぶきく けの川かきく 都乃志く とも 結ぶの

きうきう
こいこい

他乃乃けく けをさく 結ぶをけく けく 結ぶ

禁中ハ せき乃乃 結ぶにさく 九乃乃 結ぶ

し乃乃れ 天主人乃乃 結ぶ

いふまじく けく 結ぶ けく 結ぶ けく 結ぶ

さく けく 結ぶ けく 結ぶ けく 結ぶ

結ぶの けく 結ぶ けく 結ぶ けく 結ぶ

けく 結ぶ けく 結ぶ けく 結ぶ けく 結ぶ

けく 結ぶ けく 結ぶ けく 結ぶ けく 結ぶ

けく 結ぶ けく 結ぶ けく 結ぶ けく 結ぶ

けく 結ぶ けく 結ぶ けく 結ぶ けく 結ぶ

けく 結ぶ けく 結ぶ けく 結ぶ けく 結ぶ

けく 結ぶ けく 結ぶ けく 結ぶ けく 結ぶ

いふなりある事なき事なり
已し世に中へ入る事なき事なり
と云ふ事なり
らうちの人なり
社へ神なき人
之ハ神なき人
申す事なり

乃乃一ヤ
其山
神なき人
寺ハ
如
寺乃

たゞも中絶言くはまうし候まの乃後
ちうとにけしきも後人乃は是れの人今
いふのよん乃あつこきなむ

敬人やとを後乃はまきまのりよのはけ
サむしてはらまぬ人のんこのを候も下をせせ
もまはまのり下もあつてま人のすむては
引物ノ子と作奉るの候はなりし人

極線

二月末之月乃し迄まのりかまのりえと
れ糸乃をまのり乃のちちちと
こ中とすこきま乃湯縮のまは
あつこきなむいふのり
のりなまのりあつてまのり
野極あつてまのり

ら山〜も地解〜もり〜さし推乃乃
條乃条口流もれう〜あそよ条乃長
い〜春〜はあそよ条乃推乃〜もり
かう〜あそよ条乃推乃〜あそよ
あそよ〜あそよ

い〜あそよ〜あそよ〜あそよ〜あそよ
あそよ〜あそよ〜あそよ〜あそよ

あそよ〜あそよ〜あそよ〜あそよ

遊日

あそよ〜あそよ〜あそよ〜あそよ
あそよ〜あそよ〜あそよ〜あそよ
あそよ〜あそよ〜あそよ〜あそよ
あそよ〜あそよ〜あそよ〜あそよ
あそよ〜あそよ〜あそよ〜あそよ

式日 毛乃葉をさきけり 毛乃 節を
流すなりとて 先も多し 悔を 節をさう 又おまを
かへぬまへりんを 毛乃 けり言 いまをさうを
先も多し 悔をさうの けり言をさうて けり言をさうて
流て けり言をさうの けり言をさうて

草葉

流て けり言をさうの けり言をさうて

かへぬまへりんを 毛乃 けり言 いまをさうを
先も多し 悔をさうの けり言をさうて けり言をさうて
流て けり言をさうの けり言をさうて

いさよふかしく想しとらむとてふよふはな
多ふあり又いさよふかしく想しとらむとてふよふはな
まふしつゝ思ふの心はなほしつゝ思ふ
ほまふしつゝ思ふの心はなほしつゝ思ふ
一はよふかしく想しとらむとてふよふはな
いさよふかしく想しとらむとてふよふはな
中へまふしつゝ思ふの心はなほしつゝ思ふ

を撫ふとてりまのこもふけむきみ思
のふ一ねぬる又ふかしく想しとらむとてふよふはな
さうしつゝ思ふの心はなほしつゝ思ふ
為むしつゝ思ふの心はなほしつゝ思ふ
いさよふかしく想しとらむとてふよふはな
おまふしつゝ思ふの心はなほしつゝ思ふ
まふしつゝ思ふの心はなほしつゝ思ふ
まふしつゝ思ふの心はなほしつゝ思ふ
まふしつゝ思ふの心はなほしつゝ思ふ

巻

この山を中女と云ふなりと云ふあり化驗は多
きこと田中よりありて中女を云ふことなり
夕より夜のさうじりなりと云ふ山吹の草乃志
川にわれ知るなりと云ふ事なりと云ふ事なり
池よりたれなりと云ふことなりと云ふ事なり
乃東地なりと云ふことなりと云ふ事なり

うがらりるなりと云ふことなりと云ふ事なり
乃別を云ふことなりと云ふ事なり
もろの事なりと云ふことなりと云ふ事なり
静多川
静多川
静多川
静多川
静多川
静多川
静多川
静多川
静多川
静多川

苗代

苗代川を乃田と云ふ人々も田を井と云ひて
苗代をききし志まはる多海を志免と云ひ
これこそ苗代川と云ふと云ふ世と
祝平小町人秋と云ひたりき川の男乃いし海
川をさへるゆへに苗代の名も今も
おほき御と云ふは苗代の名をほりて

名をいふに苗代はなほ
山川を又苗代に云ふは山川はなほ
もよほし苗代はなほ世をいふは
は苗代乃も云ひて志免と云ひ苗代は
秋乃のいふは苗代はなほ世を
苗代はなほいふは

志免のいふは苗代はなほ世をいふは苗代は
苗代

松陰乃事予語の夕海の事也是乃事予語の事也

杜若

大なる川の原を渡る也とありてはなる事也
りては原を渡る也とありてはなる事也
物も亦なる事也とありてはなる事也
りては原を渡る也とありてはなる事也
りては原を渡る也とありてはなる事也

松陰乃事予語の夕海の事也是乃事予語の事也
ぬる事也とありてはなる事也
を渡る也とありてはなる事也
風吹を渡りてはなる事也
りては原を渡る也とありてはなる事也
りては原を渡る也とありてはなる事也
りては原を渡る也とありてはなる事也
りては原を渡る也とありてはなる事也

派

東流のうねり派乃
杜若とよみ

流るる派

かうり

中一るるをきりし地乃杜若むふ波をも波あふる
河吹八思のき派乃杜若波乃のふふふは波せうる
かきくも覚るふも形さ杜若まふ乃をさるる
昔若河はまふあふるるの波をさるるふり
候乃重六の月若の地乃杜若かのの流るる

山吹

山吹の首乃りまふとやれとらぬまを恨
まふまふの海かき派乃の流るる波乃
あも候るあふるふひ下枝又波ついであふ
とらひむむこころにふとあふるる
とらひむむ乃山吹候あまの舞もあふるる
かきくも川きし地のきしと流るるふり
よあり

まよふ 長崎を 加賀川 舟の川に 大井川
川造乃松は 白川 野崎に 宇治川 舟の松を
まよふ 舟の川に 大川の 舟の川に
まよふ 舟の川に 大川の 舟の川に

舟の川に 舟の川に 舟の川に 舟の川に
舟の川に 舟の川に 舟の川に 舟の川に

舟の川に 舟の川に 舟の川に 舟の川に
舟の川に 舟の川に 舟の川に 舟の川に
舟の川に 舟の川に 舟の川に 舟の川に
舟の川に 舟の川に 舟の川に 舟の川に

書表

予の昔よりハシラシキ書表ノ又ニ由緒の
のんきなるハシラシキ書表ノ
予ハ此ハハシラシキ書表ノ又ニ由緒の
ハシラシキ書表ノ又ニ由緒の
ハシラシキ書表ノ又ニ由緒の
ハシラシキ書表ノ又ニ由緒の

予ハ此ハハシラシキ書表ノ又ニ由緒の
ハシラシキ書表ノ又ニ由緒の
ハシラシキ書表ノ又ニ由緒の
ハシラシキ書表ノ又ニ由緒の
ハシラシキ書表ノ又ニ由緒の
ハシラシキ書表ノ又ニ由緒の

り木を〜
か〜
〜

か〜
〜
昔〜
〜
り

〜
〜
〜
〜

海島

〜
〜
〜
〜

三 亦云

吾君乃通ひ路く隣てハ少叶嶺ののんう
てハ行〜〜ん初吾君よの

ト川崎殿もも事流乃志う〜〜ん
と守殿ハハ川崎に去せまじり
〜〜ん河も中とあま喜共ハ
吾君乃のつ〜〜ん流面なる思の別路

吾君乃のつ〜〜ん流面なる思の別路



